午後１時30分　開始

【広報広聴課長】　お待たせをいたしました。
　定刻の時間となりましたので、平成21年１月市長定例記者会見を始めさせていただきます。
　最初に、お知らせを申し上げます。
　本日初めてこの会見に参加されます方をご紹介申し上げます。中日新聞敦賀支局長の佐藤様でございます。佐藤様、一言ごあいさつをお願いいたします。

【記者】　皆さん、明けましておめでとうございます。
　私、佐藤といいますけれども、昨年の８月からこちらに赴任してきて、市長さんとかにはごあいさつはさせていただいたんですけれども、どうもいろいろ中での仕事がありまして、なかなか外へ出る機会がないまま今日まで来たんですけれども、今年は少しでもこういう場に出れたらなとは考えております。うちの伊藤君も皆さんにお世話になっていますし、ありがとうございます。
　簡単に、半年ぐらいしかまだ敦賀市にはいないんですけれども、ちょっと感想なりを。
　来る前、敦賀といえば当然、原発が有名といいますか、そういうまちで知られているところだったんですけれども、原発以外でも敦賀ムゼウムというのは私も最初初めてこちらへ来たとき取材させていただいたんですが、人道の港という歴史もあるということも知りましたし、それから話は前後しますが年末のあの銀河鉄道９９９の関係のやつもある。それから、話はまた変わりますけれども敦賀駅舎の改築の問題。これがこれから大きなテーマになるかも分かりません。それと、廃棄物処分場の問題もある。伊藤君が日々原稿を書いているので、それを通して私なりにも見させていただいているんですけれども。
　とりあえず敦賀市、いろいろ懸案なりあると思いますけれども、原発、今年はもんじゅの再開というのもありますけれども、いろいろ課題が多い中でも市役所といいますか行政、あるいは市民、あるいはマスコミ、それぞれにとってより良い方向の何か結論なり方向性が見出せたら良い１年になるのではないでしょうか。そのように期待もしております。
　今日、実は私これから福井のほうの年賀式がありまして、そちらのほうに行かなければいけないものですから、２時台に出なければいけないものですから、ちょっとあいさつをして、また退席をさせていただいて非常に申しわけないんですけれども、今後この１年、また今年１年、中日新聞、あるいは伊藤記者、またよろしくお願いします。

【広報広聴課長】　ありがとうございました。
　毎回申し上げておりますが、この会見につきましては市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容をより鮮明にするためにも、発言される場合は必ずお手元のマイクを使用しての発言をお願い申し上げます。また、発言の際はマイクのスイッチを入れて発言をお願いするとともに、終わりましたならスイッチを切っていただきたく、お願いを申し上げます。
　本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、最初は事業発表項目についてお願いいたしたいと思います。その発表項目に係る質疑終了の後に、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っております。
　なお、終了は14時30分を予定いたしておりますので、皆さんのご協力よろしくお願い申し上げます。
　それでは市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　皆さん、新年明けましておめでとうございます。
　記者クラブ、また報道関係の皆さん方には、特に敦賀地域、大したこともございませんでしたから少しゆっくりお休みになられたかというふうに思いますけれども、本当に日頃報道という仕事の中でいろんなところを飛び回って活躍をいただいておりますし、非常に

話題の多いところでございますので、やりがいのあるところではないかなというふうに思っております。今年１年もいろいろとお世話になることがたくさんあるというふうに存じますけれども、ひとつよろしくお願い申し上げます。

先ほど仕事初め式、また市民交流会もございまして、いろいろお話もさせていただいて、聞いていただいた方もいらっしゃるんじゃないかなというふうに思っております。

昨年１年、本当にいろんなことがございました。大変なこともございましたし、また敦賀市として前進できたことも多くあったわけでございます。今年１年も、特に不況ということが言われておりますので、当然私ども地方のほうにもそういう波が押し寄せてきていることも事実であります。何としてでも元気な敦賀市を維持していきたいというふうに思いますし、何とか私ども敦賀市としてできることを即スピーディに対応したいなというふうに思っております。

私も市政運営の中で、短期的なもの、また中期的なもの、長期的なものという観点の中で、特に短期的なものの中では景気のことがあるわけでありますし、雇用、特に私どもの地域は製造業が逆に少ないところで、非正規雇用者の方々の問題についても、ゼロではございませんけれども少ないほうかなというふうに思っておりますけれども、やはりその対応を取らなくてはならんということも思っております。

また公共事業の低迷で、いろんな関係の皆さん方も非常に苦しい状況が続いているんですけれども、特に耐震関係の事業を早く前倒ししてでもやっていきたいなという思いを持っております。これから１月、予算編成時期に当たりますので、そういうことも各部署に指示もいたしまして、少しでも安心、安全につながる中で公共事業も増やせ、またそれが市中にお金が回るというと俗的な言い方でありますけれども、そういうことによって少しでも元気のある地域づくりを行っていきたい、このようにも思っております。

ただやはり財政は限られたものでございますので、節約できるところは節約をしていくということを堅持しながら頑張ってまいりたいなというふうに思う次第であります。

中期的には、やはり第５次総合計画を仕上げていかなくてはならんわけでありますし、また長期的には第６次総合計画の策定時期に入っておりますので、そういうものをしっかりととらえながら長期的な敦賀市のあり方を考えてまいりたい。また、もんじゅもございます。また、３・４号機の増設もございます。そういうもの等は今までどおり基本スタンスは、原子力発電所、また関連とは共存共栄を図りながら進めてまいりますが、やはり基本はこれも安心、安全でありますので、地域の皆さん方が心配されることのないような形でしっかりと私ども監視もしながら、そして原子力としっかりと向き合いながら対応してまいりたい、このようにも思っているところであります。

多くの課題がございますが、今年１年もしっかりと頑張ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、あと座って事業発表をさせていただきます。

まず、レジ袋の有料化を実施いたします。行っていただいておるところもあるんですけれども、今多くの、ほとんどのスーパーの皆さん方とも合意ができまして、一部ドラックストアも入っておりますけれども、そういう皆さん方の協議が整いまして、３月２日から有料になるということでございます。

かなりいろんな分野でそういうお話もマスコミの皆さん方も報道もしていただいておりますので、周知がかなりされているようでございます。まだ無料のところでも、買い物袋を持っていったりしている方が非常に増えてきたなということで、そういう効果も出ておるようでございますが、恐らく有料化になりましてもある程度スムーズな形で移行ができるのではなかろうかなというふうに期待をいたしております。

これも環境問題等々を考えますと非常に、ちりも積もれば山となるというのは本当にこのことかなというふうに思うんですけれども、非常に私ども最終処分場のほうも負担軽減もされるわけでございますので、こういう事業にしっかり取り組んで、すべての商店の中でそういうことができるように。買い物に行くときには、ポケットに買い物袋を持たな買い物に行けんのやというような形になればかなり徹底されますので。女性の方は多いんですけれども、ぜひ男性の方も常にポケットに入れておくという習慣。市役所のほうでも職

員の皆さん方に周知をしながらぜひ普及をして、敦賀にはどこへ行ってもレジ袋は要らんのやと言われるようなまちにしていきたいなというふうに思っております。
　次に、成人式、恒例でございますけれども、新成人が主体となって運営する成人式を今年も行っていただく予定でございます。人数のほうは昨年よりは５名増えておりますけれども、全体的にはやはり敦賀市も少子化の歯どめが余りかかっていないようでございまして、昨年より５名。でも昨年が前の年よりもたしか86ぐらい減っておりますから、５名増えましても先ほど言いました歯どめがかかっていない状況でございますが。
　おかげさまで敦賀市、歴代成人式、非常に粛々とした落ち着いた成人式を行っておりますので、マスコミの皆さん方も行っても余り、さわやかな良い成人式だなということで報道されるのではなかろうかなというふうに思っております。やってみないと分かりませんので何とも言えませんけれども、私は大丈夫だというふうに思っております。
　次に３番目でありますけれども、文化財の火災防御訓練ということで、恒例でございますが、今年は永建寺さんで開催いたします。実は過去には私ども、文化財、西福寺さんとか２カ所燃えたことがございまして、大変貴重な文化財が焼失したという苦い経験も持っております。また全国各地でも日本というのは非常に歴史の古いところでありますので、いろんな昔の文化財が火災によって焼けるということもございますし、お隣、韓国では昨年でしたか、南大門という大変貴重な国宝が放火に遭ったというようなこともございました。
　そういうことを踏まえ、そういうものを後世に伝えていくためには火災をまず起こさない。仮に起こってもいち早く消火をして防ぐという、そのようなことを目的に訓練をいたします。これは１月24日土曜日９時半から永建寺さんで行われるところでございまして、また報道の皆さん方ももし取材に行けるようでありましたら行っていただいて、またそういうことも報道していただければありがたい、このように思っております。
　私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】　ありがとうございました。それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました発表項目、３項目につきましての質問を先に承りたいと思います。
　最初に幹事社さんのほうから、ありましたらお願いします。

【記者】　新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
　発表内容から私１点だけ、文化財火災防御訓練についてなんですけれども、毎年定期的に行われていて、かつ市の文化財が所蔵されているような施設、持ち回りみたいな形で行われているのかどうかということだけ確認させてください。

【消防署長】　敦賀消防署長の井村でございます。
　訓練は、毎年１月26日を中心とした土日に行っております。今年で消防組合発足以来40回目。途中２回ほど雪と重油で中止があったんですけれども、それ以外は毎年１月26日を中心とした土日に行っております。
　以上です。

【市長】　１月26日は文化財防火デーですね。

【教育長】　もう１点、文化財があるところをしているのかというお尋ねですが、原則そのようにしております。現在、敦賀市では188件の文化財を所有しておりまして、そのうち市指定が145件、県が25件、国が18件です。最近では西福寺が県の指定が国の指定に変わりましたし、また新たに気比神宮にございます記録が市の文化財として指定させていただいております。

【記者】　明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
　レジ袋の有料化の件で２点お伺いします。

１点目は、まず３月２日、有料開始に当たって、市民の方への周知広報、例えばチラシであるとか具体的にあれば、その周知方法をお伺いしたいのと、有料化の実施が３月２日時点で県内の自治体で何番目か。この２点をお伺いしたいんですが。

【市民生活部長】　市民生活部長の角野でございます。明けましておめでとうございます。よろしくお願いいたします。
今の２点についてご質問のお答えをしたいと思っております。
周知方法につきましては、ポスターも今制作しておりまして、各店舗にもそのポスターを張らせていただこうと思っておりますし、おっしゃっていただきましたように私ども４つのいろんなメディアというか広報手段を持っておりますので、行政チャンネルであるとか広報紙等々で市民にお伝えをしたい、このように思っております。
それから県内では、越前市、福井市は４月からというふうにお聞きしておりますけれども、３月２日から実施しますのは福井県で私どもが先駆けて実施ということでございます。
以上です。

【広報広聴課長】　それでは報道各社、今の発表事項につきまして質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】　レジ袋のことに関してなんですけれども、先ほど市長、ごみを減らす、少しでも減らしたいということで、どれぐらい減るというふうに見込んでいるんですか。たしか敦賀市って県内で平均すると一番多くないとは思いましたけれども、ちょっと多目の平均すると1,000グラムか何か出ていると思うんです。大体どれぐらいを見込んでいるのかなということを教えてください。

【市民生活部長】　ちょっと今数字がありませんので、申し訳ございません。

【市長】　重さはないんですけれども、かさばりますね。一緒にごみにすると。枚数ぐらいは分からんかね。かなりの枚数だと思います。また調べて。

【記者】　冒頭のあいさつについて聞いてもいいんですよね。
耐震工事の前倒しということをおっしゃっていましたよね。多分、商工会議所からの要望もあったと思うので、市としても実施するんでしょうけれども、具体的に新年度の当初に幾らぐらいこれを見込んでいるのか。あるいは老朽化しているところ何校ぐらいあって、そのうち例えば新年度から何校ぐらい着手するのかとか。そこら辺の、まだ要求段階なので固まってはいないと思いますけれども、市としてのそういうめどみたいなものがあれば教えていただけますか。

【教育長】　それでは教育委員会関係の、特に学校ということで取り上げさせていただいております。
15棟がまだ耐震、耐えられるかどうかの検査、耐震検査、そういうものがまだでしたが、もう既に発注しておりまして、早く、12月ぐらいには出るかなとも思ったんですがとても無理だということで、３月、今年度中、20年度中には結果をいただけるようになっています。これは多分３月中に結果が出ると思っております。
その内容により、早急に予算化ということ。いわゆる設計段階に入ります。そういう設計の委託をお願いするという形になります。本体の工事そのものは、21年度予算の中で、これも終わりのほうで素早く対応ができれば、一部が可能かなとも考えておりますが、原則的には早い時期での設計、そして間に合えば工事ということを21年度に取りかかって、22年度には完成したいと考えております。

【記者】　それは前倒しということでいうと、要は当初市としていつまでやる計画で、そ

れをどのくらい前倒ししてやることになるのか。

【市長】　極力、今までは段階で何年に合わせて耐震をやろうということですから、大体少しずつやってきたんです。今までは。それを、これは仕事をされる方の都合もありますけれども、極力診断が出次第、危ないところはともかく早くやろうということで、まず診断が出ませんことにはまだできないんですけれども、年度末に診断が出次第、ある程度順番とかじゃなくて、なるべく一斉に発注をしていち早く耐震はやっていきたいなというふうに思っております。
　それと、ちょっと細かい数、建設部長がいないので分からんのですけれども、敦賀市の橋がたくさんあるんです。川にかかっている橋が、たしか140ぐらいだったかなと思うんですけれども。かなり老朽化しているところもたくさんありますので、そのことについても早急に診断を行って、地震、災害のときに橋が落ちてしまうと、それで結局救急車が行けない、何が行けないということで、ご承知のように敦賀の場合、笙の川とかいろんな、木の芽川もありますし黒河、いろんな橋で地域が、それがなくなるとつながらないというところがございますので、そういう古い橋などもしっかり診断して、危ないということになれば早急にそれも発注して、なるべく早い耐震工事をしたいなというふうに思っております。
　数字等については、また部長に。

【広報広聴課長】　ほかに質問ございませんでしょうか。

【市長】　それともう１点、耐震ですけれども、隣の市役所の庁舎も前に議会で出ましたように、かなり判定はもう出ているんですけれども弱いということでありますので、私の部屋もそうですし、記者クラブさんの部屋もそうなんです。一番危ないところに実はいらっしゃいますので、そのあたり耐震補強をどのような形で……。
　橋については、36で敦賀市の橋があって、これは10メーターから、余り短いやつは入っていないんですけれども10メーターから15メーターの橋。目視調査で点検をまずしても、結局橋というのは上からしか見ませんけれども、下へ入って見ると相当傷んでいるというのが分かりますので、なるべく早く調査して補強に入りたいと思っています。
　それと、市役所、本庁も実は昭和49年にできた庁舎でありますので、建て替えというととてもじゃないですけれどもお金がありませんから。今かなり耐震も安く、それと見た目も表側にバッテンのごっついのをどんと入れますと余りよくありませんから、そのあたりをしっかり調査は一度しまして、弱い部分にはある程度の補強をしなくてはならんし、消防庁舎の古いほうですね。こっちはしっかりしています。隣のほうの庁舎も同じような時期に建っていますので、いざというときに消防関係が壊滅したのでは困ります。こちらはしっかりしていますけれども、隣も、そのあたりも、今調査に入りたいと思っています。

【広報広聴課長】　発表項目につきましての質問がありましたらお願いいたします。発表項目３項目ですが、ないようでしたら次第の３番目へ移りたいと思います。次第の３、フリーの質疑応答ということで進んでいきたいと思います。
　これも最初に幹事社さんのほうから、ありましたらお願いいたします。

【記者】　整備新幹線の話から。昨年末、与党案で金沢以西、福井までの延伸のことと、あと敦賀駅部、新年度中に認可する方向で合意しているというニュースがあったんですが、敦賀駅部の部分なんですけれども、ここで認可の方向になったんですが、現在リニューアル案というのを現駅舎のことですね、敦賀市のほうで検討されているんですが、今回の合意とリニューアル案、どのように整合性をとっていくか。また、結構難しいのかなと思うんですけれども、その辺、現時点でどのようにお考えでしょうか。

【市長】　おかげさまで来年度中にはそういう方向で検討すると。実はいろんな条件がつ

いていまして、その条件をクリアしたら認可ということでありますので、まずその条件をクリアするためにこれから努力をしなくてはならんなというふうに思っております。
　そこで、駅部が仮に来年度中に認可されますと、駅部のほうに工事にかかろうと思えばかかれるわけであります。今ご承知のとおり現駅と新幹線ホームというのは約80メーターぐらい下がるということが設計上で決まっていますので、そうなると新しい駅をそこに将来つくって、線路も皆動いたらいいんじゃないかということも考えられるんですけれども、なかなかこれまたＪＲさんとの協議の中で非常に実はそれが難しい問題でして、恐らく現実案でいくと今のところをリニューアルし、新しい新幹線ホームをつくり、その下のほうに新幹線口といいますか、そういう駅をつくり、そのかわり条件というのはアクセスができんといけませんので、木の芽川をうまく渡り、後ろのほうへのいろんな道路なども整備をして、新幹線駅と現在の駅ということで将来的には整備をしていくのが一番現実に近い案かなと今私どもは踏んでおりますが、基本的には来年度末の認可が下りませんとそれも前へ進めんということであります。
　それと、新しい駅というのは全く私ども今まで新幹線ということが、まだ敦賀まで認可で上がったのは実は１年半前でして、その前までは新幹線は次の次のステップという考えの中で積み立てをして、現在のところに新しいどんとした駅舎をつくろうということで積み立てもし、いろんな委員会も立ち上げて、２代目駅舎をしようということでごらんになっていただいたこと。２代目をイメージした駅舎、ある程度絵までできていたんですが、新幹線というものが１年半前に具体的に敦賀までの認可ということが上がった時点で、その話は相当将来に先送りし、やはり今の現駅舎をリニューアルし、そして私、前に言いましたように年間210万人から利用する駅でありますし、例えば直流電車の最終駅であります。いろんな中でリニューアルをし、お迎えをし、今の状況の中で。
　じゃそのリニューアルの駅は10年、20年でというと、私はそうはないと思います。恐らく全部の線路が動きというと、もっと将来の先の話になりますので、リニューアルといえども耐震と、そして30年、40年、50年もつ一つのリニューアル駅舎でございますから、そういうような観点に立てば、今の形の中でできるだけ早くＪＲがバリアフリーにするときに合わせてリニューアルをやっていくのが理想じゃないかなというふうに思うんですが、これから議会でもいろいろ議論も出ていましたので、いろんな関係の皆さん方としっかり調整をして、リニューアルというのは一つの大きな案といいますか、一番近い案ということで私どもも努力をし、説明もしていきたいなというふうに思います。
　ただ、ご理解が得られませんと予算も執行できませんので、なくなりますので、そのあたりよく調整をし、また予算面についても、県のほうも駅部ということがちゃんと認められれば、福井駅があれだけの高架で相当なお金がかかった。あれも県が相当支援をしていますし、敦賀の場合も新幹線駅舎ができるとお金もかかりますので、リニューアルはその一部分として県の応援なり、また国のいろんな区画整理の応援なりする予算がまた確保できれば、市としての負担も少なく、いいものになっていくという可能性もありますので、そういうことをいろいろと踏まえながらいろんな案を模索して、新年度に予算を盛るのか、またもう少しずらして。まだ少し余裕がありますので、そういうあたりをこれから煮詰めていきたいなと思っています。

【記者】　今の話をお聞きしますと、現時点では敦賀市としては新幹線駅は新幹線駅で別のものと。80メートル、福井と違って線路が離れてしまうということで別のものとして、それは認可された後に整備すればいいと。まずは今進めているリニューアルというのをやっていきましょうと。来年中にいろんな条件がクリアされて、仮に駅部が認可されたら、それはそのときにまた80メートル離れたところに新幹線駅ができて、あとはそこへの今の駅舎とのアクセスとかを今後考えていけばいいという、そんな理解でよろしいでしょうか。

【市長】　リニューアルした場合のバリアフリーもやりますから、バリアフリーの跨線橋はかなりホームがありますので、新幹線駅とは恐らく三、四十メーターですので、それはつなげるように、そういうことの設計をしておけばいいというふうに思います。決まれば

将来新幹線ホームができたときは、こちらはつなぐし、向こうは向こうでまた出入り口をつくっていきますから。それと恐らく乗り継ぎのときは、在来線だけでもひょっとすると向こうへ動く可能性はあります。新幹線が来たときには、余り動いて乗り換えというのは大変ですので。新幹線のどこでもある八代、あそこなども横に乗り換えして新幹線と在来線を乗り継ぐようなホームもございますので、そういうやつも、それはまたＪＲさんなり、また建設公団の皆さん方、機構といろいろ相談をしてやっていけるような形でリニューアルなりバリアフリーは考えていかないと、それこそ手戻りになりますので、将来を見据えた形の、でもしばらくできなくてもそれもバリアフリーとして使えるという、そういうシステムが一番無駄のないやり方かなというふうに。今はまだ想像段階でありますので、そういうことを踏まえていろいろ議論していきたいと思います。

【記者】　もう１点だけ。先ほど市長がおっしゃられた中に、もう少し余裕があるからと。時間的な余裕だと思うんですけれども。新年度の予算に敦賀市の予算として、当初の予算でリニューアルに関する予算が入らなくて、年度途中で補正、そういうふうな可能性もあるということでよろしいですか。

【市長】　はい。
　ＪＲさんのバリアフリー工事に合わせてですので。例えば22年までにバリアフリーはやりなさいということであります。多少はいいんですけれども、それに合わせて逆算をしていけば、おのずとこちらのやるのが合えば、しばらくそういう面での猶予がある。要するに考える時間はあるんじゃないかと思っています。当初にこれから一生懸命練って出すのも一つですし。

【記者】　今のに関連して、また駅部の話を１点だけお伺いしたいんですけれども。12月の市議会で議員の方から、新幹線用の駅舎を建てる場合は位置関係などから二重投資になりかねないですとか、バリアフリー工事だけでいいんじゃないだろうか、異論が出て、市としては実際に新幹線が認可されて通るとしても約30年後ということもあるので、全面改築も含めて再度考えたいという回答をされて、結局まだ議会との調整がついていないということで、駅周辺整備構想策定委員会の次回開催も未定だということで混迷が続いていると思うんですが。方向性としては今大体お伺いした話で分かるんですけれども、11月に周辺整備構想策定委員会で決定した一部改修案にはこだわらず、むしろより広い観点で30年、40年もつような大きな部分改修、つまり８億円以上かけて一部改修を行うのか。その辺は道筋みたいなものは決まっているんでしょうか。それとももう一回ゼロから考え直すというか。

【市長】　基本的には委員会でいろいろ練っていただいたリニューアルなんですけれども、このリニューアルというのは決して10年しかもたないリニューアルとかではなくて、耐震も含めてしっかりしたリニューアルでありますので、当然それでも何十年も使える私はリニューアルということを最初から意識しております。
　全面改築というのは、実はＪＲさんとの協議がどうしても合わない部分があるんです。これはどうしても合わない部分でありますので、それはやはり置いておかなくてはなりません。基本的にはしっかりとした良いリニューアルをやり、将来的につなげる。これはＪＲさんとの協議になりますけれども、跨線橋のあたりのいろんなやり方なども踏まえて、将来対応もできるし、現時点の中で最低限のリニューアルではあるけれども、待合室も広くなりますし、また利用する皆さん方にとってほっとできる駅舎にもっていく。そして使いやすいトイレ。身体障害者の方やお年寄りにも優しい駅ということで。本来、議会のほうでも出ておりましたけれどもＪＲさんがやっていただければ一番良い話なんですが、なかなかそれはできないことが現実でありますので、要するに現実対応という形でいけば、今私が言いましたようなことでいくのが一番良いのかなと。
　二重投資というふうには、私はだからならないというふうに思っておりますし、新幹線

も確かに認可が下りてから普通は10年以内につくるというのが基本でありますが、今の財政状況を見ておりますとどうしても10年というのは、何とか10年以内に福井まで来てくれればいい話であり、それから先にトンネル工事があり買収があるというと、どなたがどうそろばんをはじいても十二、三年では来ることは不可能に近いのかなというふうに思いますけれども、私どもは一日も早く敦賀までの認可ということで運動していきますから、また経済状況が変わり、またいろんな国の体制の中で指導者もかわっていったり、麻生さんから他の人に代わったりするかもしれませんし長くやるかもしれませんけれども、そういう中でいろんな国の動きに合わせなくてはならん部分もございますものですから、そうなるとなかなか数字としては言えませんけれども、そう早くは無理ではないかというふうに予想していますのと、私どもも駅東部分のいろんな開発になりますとまだ相当時間もかかりますので、駅舎部分と合わせて、こちらのほうも地道に取り組んでいって、敦賀全体が。

敦賀はご承知のように、普通なら大概、駅というのは昔でいうと駅前があって駅裏があって、今は敦賀ですと駅西があって駅東という形がいいんですが、笙の川の関係もあり、またいろんな他の関係があって全くない状況でありますので、そういう駅自身の根本的な考え方も少し考えながらいきますと、駅東地区の新幹線駅舎というのは一番理にかなった方法でしょうし、そういうアクセスがあれば、まち全体としてもいろんな駅の東側の大きな活用も十分考えられますので、そういうことを踏まえて運動展開をしていきたいなというふうに思っております。

二重投資という観点からいけば、私はそうならないというふうに思いながら、また議会の皆さん方に説明をしていきたい、このように思っています。

【記者】　別件でもう１点だけ。市長の冒頭のあいさつでもありましたけれども、派遣社員の方の契約切れだとか解雇が相次いでいると思います。県内の武生だとか、大分でもやっていますが、こういった方々の救済という意味で自治体が臨時職員として採用するケースがありますが、敦賀市は現段階でそれを考えているのか。その辺もしあればお聞かせください。

【市長】　私どもも市としてどのような対応ができるかということを実は考えております。３月、４月、また異動の時期になりますし、またやめられる方も私どもの中にいらっしゃいますし、忙しい部署もありますので、そういう観点から、またそういう臨時の職員の皆さんの雇用ということは視野に入れて段取りをしております。

【広報広聴課長】　幹事社のほう、それでよろしいでしょうか。質問のほうは。

それでは報道各社、フリーの質問につきまして、ありましたらどうぞ。挙手をお願いいたします。

【記者】　さっきの駅舎の改築の件なんですが、くどいようですけれども確認のために聞きますけれども。市としては、当初予算でないかもしれないけれども、補正予算で組むかもしれないが、21年度からリニューアルに向けて着手というんでしょうか、予算計上作業も含めて21年度からやるんだという方向性は変わらないということでよろしいですか。

【市長】　はい。いろいろ調整はしますけれども、基本的にはそれの方向を持っています。

【記者】　あと１点、もんじゅなんですけれども、今日、日本原子力研究開発機構の年頭の式典も見てきたんですけれども、本部長も運転再開に向けて全力を尽くすと決意を述べられていましたけれども、現実的には日本原子力研究開発機構が言っている２月というのは非常に厳しい状況かなと思うんですけれども、この現状についてはまずどのように認識されていますか。日本原子力研究開発機構が２月と言っていることについて。

【市長】　私どもも機構さんからのお話しか聞いておりませんので、２月を目指して頑張

るんだという気持ちは聞いておりますが、今おっしゃいますようになかなか厳しいのではないかなというお話も機構さん以外から聞くものですから。でも本人さんというか、やる側から聞きませんと私どももはっきり分かりませんので、また恐らく何かあれば報告が来ると思いますので。今のところは２月に向かって頑張ると言っておるので、頑張ってほしいなと思っています。

【記者】　難しいという認識ではいらっしゃるんですか。

【市長】　周りの話を聞くと、難しいんでないかなというふうに感じます。

【記者】　市長はどうご覧になっていますか。

【市長】　だから周りの話を聞いて、そうかね、難しいんですか、ああそうですかとしか。でも頑張るというんやで、頑張ってくださいと思っています。

【記者】　運転再開に向けては、地元の事前了解に向けた協議というものは必要なんでしょうけれども、去年からトラブル、一昨年ぐらいから続いている検出器もありますけれども、トラブルが相次いでいる中で、ダクトも見つかったと。プラント確認試験もまだ終えていないという状況の中で、市として地元としては事前了解に向けては、例えばこういうことがクリアされればとか幾つか条件ではないですけれども、環境整備が必要な点というか幾つかあると思うんですけれども、具体的には何か。

【市長】　私どもとすれば、技術的なことは余り分かりませんけれども、やはりこれは国が責任を持ってやるわけですから、ちゃんといろんなダクトの件、また耐震の問題しっかりやって、国が太鼓判を押していただきませんと私どもは何とも判断しようがございませんので、最終的にそういうものが出て、国が大丈夫ですよということで私どもに認可を求めてきますので、そのときに判断すればいいことであります。
　何回もありましたけれども、確かにずれてきていますけれども、私は別にずれても、安心で安全なものにしてからでないと市民にとって不安が続きますから、時間多少かかってもともかく徹底的に安全、安心部分をしっかり対応して、それから運転再開ということを目指してくれればいいと私は思っております。

【記者】　国の太鼓判といったときに、耐震性の問題クリアすることとか、あとはやっぱりあれですか、原子力安全・保安院が特別な保安検査をしていますけれども、これで組織体制改善が見られたとか、そういうことを保安院が太鼓判を押さないと市としても乗れないよという感じなんでしょうか。

【市長】　普通そうでしょうね。やはり安全部分を担うところが不安であったのでは、とても私ども専門家が、いつも言いますけれどもそれだけたくさんのスタッフを配置していませんので、自分自身で、市自身で確認もできませんので。私は安心、安全面については国が一元的に責任を持ってやっているから地元は受け入れているのであって、そういうことがしっかりしませんと了承を求めてこないと思うんです。これなら大丈夫です、だから地元として運転再開をという話になれば、そこを信用していくのと、私どもはいろいろ国に対して努力する自治体を応援してもらないとだめよと言ってありますので、その辺の返事がうまく返ってくればこうなるだけですけれども。

【記者】　よく分かりました。

【記者】　先ほど市長、市民交流会の中で敦賀港は開港110周年でという話をされていたと思うんですけれども、それに向けて何かポートセールスも含めて、どういうふうに利用策

と、周知して人を集めるイベントなんかも考えていらっしゃるのか、ちょっと教えてください。

【市長】　110周年ということで、開港100周年には、あの当時でしたのでまだ経済的にもできたのかもしれませんがミニ博覧会も開催して、100年でしたからかなり盛大にフェスティバルなどもやりました。110年でありますので、これも一つの大きな節目ではありますけれども、ただ何もしないということは考えておりません。今の経済状況に合わせて質素な形にはなるかもしれませんけれども、ある程度110周年というものの節目を祝いたいなということで、今財政当局といろいろ相談していますけれども、なかなかイベント等に出すお金というのは難しいものですから、本当に大したことはできないと思いますけれども何かしていく予定です。地道なものを。

【記者】　年が改まりましたので、今年の動きで一つ気になることをお聞きしたいんですが、今年地方分権推進の一括法案が、国政は流動的ではあるんですが秋ごろ出るのではないかというのと、あと関西広域連合が夏にも発足するのではないかということで、地方分権がかなりクローズアップされる年になると思われます。

その中で、いわゆる第１次勧告に比べて第２次、第３次のほうでは県というよりは市町村の役割というのにかなりライトアップされる年になりそうだと。定額給付金の問題もありますし、市民とか住民との直接の窓口になる市町村の役割というのはかなり見つめ直される段階になると思うんです。

もう一方で、定住自立圏構想というのがあって、人口20万人ぐらいで、他のところにお世話にならずにそれだけで何とか自立できてるふうにしようという構想とかもあって、ちょうどここに当てはめると嶺南が一つの自治体だった場合にはちょうどそれぐらいになるかなという規模の試算もありまして、そういう意味で合併といいますか道州制とかそういうところも含めて、敦賀市及びこの周辺の自治体での今後の行政のあり方みたいなものを新年どうお考えになっていますか。

【市長】　私ども、まず嶺南広域行政組合がございますが、そういう中で全首長も集まっておりますし、ご承知だと存じますけれども昔のまだ助役と言われていた時代に全部集まって、嶺南１市構想の検討を行ってきたわけでございます。いろいろ議論もされてきておったんですけれども、なかなかそれぞれの自治体の事情もあって一遍に一つというのは難しいなと。第１段階が平成の大合併ということで、おおい町さんと若狭町さんが合併をしたのが始まりであります。その後、実は前もお話出ておったんですけれども、合併して良かったか悪かったかというそういう話を合併した自治体でされている中で、全体とすると余り良かったという話が出ていないというようなことも実は聞きまして。私どもは合併していない自治体なものですから知らないんですけれども、されたところの話の中を。どことは言いませんけれども、全体からいくと何か余り良くなかったなという話のほうが最近よく出ておりまして、そういう観点から少し大きな合併はどうという話が今実は出ていないのが現状であります。

ただ、今お話あったように地方分権になる。しかし分権でもらってもお金がない、何もないでは実際自治体運営ができませんので、当然自治体自身がしっかり力をつけていくのが筋でありますし、道州制も一時消えかかったんですけれども、また今いろんなそういう話も出てきておりますし。

私は個人的には、将来には国のあり方とすれば道州制なり、もっと自治体を大きなものにして運営をしていかないと本当に立ち行かん時代が来るんじゃないかという危惧はしておる一人ではあるんですけれども。ただ一般の市民の皆さん方からいくと、今合併をして、特に敦賀市の状況ですと困るというようなことが実際は起きていないものですから。そうすると市内の中では議論が出ない。まして議会のほうでもそういう議論が出ない現状でありますので、そこを率先して合併というよりも、当面のいろんな諸問題を抱えておりますから、当面の諸問題もしっかりと解決していくのが大きな仕事になっておりまして、なか

なか気持ち的には合併等、また道州制等も必要だけれども、今直ちに敦賀市の中でそれを大きく議論していく時期でもないんじゃないかというふうに感じておる今日このごろであります。

【記者】　国会でも聞かれそうですけれども、定額給付金の件、市長はどういうふうにとらえていらっしゃるか教えてください。

【市長】　これも議会のほうでも質問出ましたように、国の一つの経済対策として、一定の私は効果はあるというふうに思うんですけれども、地方に任せた、おまえらでやりなさいというものですから。ただ、それを受けなくてはならん。もし決まりますと。国会でどういうふうな議論になって、どういうふうな結論になるかというのは今定かではございませんけれども、なれば、受けていかなくてはならんということで、つい先だってもそういう定額給付金のチームをつくって、辞令交付も実はしたところでございます。
　そういう若手のメンバーによって、来たときにはというシミュレーションもしながら、いかに取り組めば一番それが効果的に、また市民の皆さん方に喜んでもらえるような形、また不満の出ないようにどう対応するかということも含めて、今問題点を洗い出しております。

【記者】　新幹線の話に戻るんですけれども、先ほど市長、新幹線と在来線の駅を分けるというか、それが今のところ現実案という感じのことをおっしゃいましたが、具体的に一緒にした場合と別々にした場合の経済効果とか、そういったことの計算とかはされているんですか。

【市長】　まだ具体的にはしてはおりませんけれども。といいますのは、ＪＲさんの線路部分がたくさんありますし、あれが本来ですと今のところに新幹線が入ってくれればそういう問題は起きなかったんですが、どうしても離れる。
　一番良いのは、どっちかに寄って上下ぐらいになるのが一番いいんですけれども、寄せる技術的な問題とお金の問題と、それと駅前自体が変わってしまいます。ごそっと変わってしまいますので、そういう３点を総合的に考えていくと、僕は当面の50年とは思っているんですけれども、当面の50年の間は別の駅舎でいき、また将来50年のときにはまたいろんな、今のリニューアルの駅もそこまではもちませんので、そういうふうな形でＪＲさんとの協議の中で一緒になっていくのが理想ではありますが、現時点ではそれが難しいものですから、今の形でやるのが今の現実的なものとしては一番良いかなというふうに思っています。
　ただ、それをシミュレーションをはじいてやった場合幾ら、やらなかった場合幾ら。寄る場合の金というのは大体出るんです。線路を全部動かしてこっちへ上げる百数十億以上の金がかかるであろうという予想は出るんですけれども、じゃ寄らなくて経済効果１年、寄って幾らというのは現実にはやっていません。

【記者】　それに付随して、あと連携大学とかも一時期、駅周辺に施設をつくろうという話もありましたが、新幹線の駅との兼ね合いというのは別にかぶったりはしないんですか。場所的には。

【市長】　それはかぶったりしません。新幹線駅舎は少し後ろのほうへ下がりますので、ちょうど駅の東側の川と今の駅の間のところですから、もっとこっちです。

【記者】　もう１点だけ。新年から原発の新検査制度が始まりましたけれども、あとは全原協の……。

【企画政策部技監】　新検査制度自体は１月１日からもう既にスタートしているところで

あります。

【記者】　それに付随して、全原協の会長でもありますので、原発立地自治体の首長としても、それに対するコメントみたいな感じで。

【市長】　私も何度も新検査制度につきましては国に対しても発言もさせていただきましたし、そういう中でより安全に検査ができる方法をやってくれと。そのための新検査制度であって、今までの検査制度もそれなりには役割を果たしてきましたし、13カ月ごとということで期間を決めてやってきたんですけれども、原子炉自体も古い炉も増えてきたし、また新しい形のものも増えてきたし、検査機器、検査をするいろんな体制もこの間に随分変わってきましたので、今の一番ふさわしい検査方法ということでやってくれと。それがたまたま少し期間も延びることも可能である。しかし動かしながら検査することもあるといういろんな議論をしながらやってきまして、より安全に保てる検査をする検査制度であるというふうに私は思っております。
　確かに定期的にやることによって民宿のところに宿泊されたり、定期ですから。特に敦賀の場合は４基の発電所が、まあ１基はもう廃炉になっていますけれども、うまく４カ月に一遍というということはちょうど１年中あるということも考えられて、そういう点の経済的な損失があるかもしれないという非常に不安もありましたけれども、それがある程度平準化していくというお話も聞いてまいりましたので、そういうマイナス面が出るようであれば困るが、出ないのであれば新しい検査制度の中でしっかりと検査をやって、より安心、安全につなげてほしいということを常々言ってまいりましたので、ある程度そういう方向にも行っておる一つの検査制度でありますので、ぜひ新しい検査制度の中で安心、安全に結びつく検査をしてほしいなと思っています。

【記者】　それに付随して、経産省はたしか幾ばくかの予算を、立地自治体に2,000万とかの予算を組んでいるんですけれども、それに関して市としての使い道というか、そういうのは先ほどおっしゃった民宿とかへの何らかの補てんとかに充てるんですか。それとも、ただの広報に使うとか。

【市長】　自主的なこれから運営が始まると、またしばらくするといろんな実態的に、去年の今までの検査制度のときにはうちはこうだったけれども新しくなったからこうだよという恐らくデータがこれから出てくるというふうに思いますので、そのあたりを見極めながら、また観光地でございますから観光面でのカバーを促進するというお手伝いなどもできますので、そのお金を一律どうするということではなくて、観光振興とかそういうものにも結びつけていって補うというと変ですけれども、そういうような部分で対応していけたらなと思います。

【広報広聴課長】　先ほどのレジ袋の質問につきまして、市民生活部長のほうから回答が出ましたので、お願いいたします。

【市民生活部長】　レジ袋の削減効果ということでございまして、かなり推定しか出ません。といいますのは、各店舗それぞれ枚数というのは企業秘密ということでオープンにしてくれない。売上高に関係するものですからオープンにしないんです。私どもの推定では、１年間、約１人、これもアバウトなんですけれども200枚から300枚使うであろうというふうに推定しておりまして、年間それで計算しますと約1,500万枚を使用しているということになると思います。
　約１枚７グラム、これも大きさがありますので平均だと思いますが。そうしますと半分削減されて、750万枚削減されたという計算をしますと52.5トンのごみの減量。これは全体の私ども２万2,000トン焼却しておりますので0.24％ということになると思います。これが逆に全部削減されると100トンという計算になるかと思いますけれども、大体その辺の範囲

かなと。50トンから100トンの間ぐらいかなというのが推定でございます。
　以上でございます。

【広報広聴課長】　他に質問ございませんか。
　ないようでしたら、これにて１月の定例記者会見については終了いたしたいと思います。
　本日はどうもありがとうございました。

【市長】　ありがとうございました。また今年もよろしくお願いします。

午後２時28分　終了